

第4回 第1分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成17年8月9日（火） 午後6時30分～午後8時35分	記録者	【学生補助員】 守田 哲 田多井 さやか
		責任者	区事務局（菊地）
会議出席者：42名、傍聴者1名 （区民委員：32名 学識委員：2名 区職員：8名）			
<p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 第3回会議録 ・ 第2回まちづくり学講座のお知らせ ・ 杉並区立児童センター「ゆう杉並」見学会レポート ・ 第6回・第7回開催通知 <p>■進行内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本日の進め方について 2 グループ討議 3 グループ討議の報告 4 事務連絡等 <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本日の進め方について <p>○： 第4回目の分科会を開催します。まず、はじめにお手元の資料を確認させていただきます。（資料確認）なお、前回の分科会で日程について様々な意見をいただきましたが、欠席されていた委員の意見も聞かせていただき、皆さんの都合のいい日というのは無理であることから、当面は曜日も固定しないで月2回を昼と夜、交替で行っていきます。</p> <p>それでは、前回に引き続き、グループ討議を中心に進めていきます。今回は、前回の議論を更に具体化していきたいと思います。人数が少ないグループもございいますが、後からいらっしゃる方もいますので、このグループで進めていきたいと思います。</p> <p>◎：（汐見）こんばんは。今日もグループ討議を中心に進めたいと思います。本日は、より議論を進めていただくために、テーマ設定⇒問題の具体化⇒解決策の提案というプロセスを意識して議論を進めていって下さい。</p> <p>まずはテーマ設定です。前回はメンバーの問題意識を出し合うのに終始した訳で</p>			

すが、今回はある程度共通する問題意識をグループでまとめ、グループとしての成果を出すためです。

次に問題の具体化ですが、議論が抽象的になってしまえば、理想論に終始してしまいますので、皆さんの具体的な生活の中にある問題を出来るだけ現実味のある形で議論して下さい。

さて、最後に解決策の提案ですが、これも聞いている人がイメージしやすい様な解決策を考えて下さい。例えば、場所の確保のために、ビル会社の社会貢献を活かすとか、地域の防犯を兼ねて高齢者のお宅を利用させていただくとか、お金の集め方、人の集め方、そうした具体的なプランを練って頂き、最終的にチームの結論として発表して頂きたいと思います。

今まで述べた一連のプロセスは、私たちの分科会の目的を達成するために非常に重要です。私たち分科会の目的は、単なる問題提起だけではなく、具体的な解決策を提案し、新宿区をより住みよい街にしていくことです。そのためにも、まずはしっかりと具体的な議論をしましょう。大体議論の時間は一時間程度、つまり8時からいまでにまとめて下さい。

◎（杉山）：テーマ設定は7時を目処に一旦発表して下さい。

2 グループ討議（18：45～20：00）

（各グループのテーマ）

乳幼児グループ：子育て世代とその他の人との交流

親への子育て教育グループ：気がついて欲しい親の役割

青少年グループ：青少年の居場所

地域の中での子育てグループ：子どもの安全な居場所のためにスペースを確保

子育てのための環境グループ：

都市の中の自然環境実体験の場・未来に伝える伝承の場

小中学生グループ：小中学生の居場所

発表シート（基本フォーマット）

※各グループが大きい模造紙に書き込み、ホワイトボードに貼り付け全体発表。

テーマ	グループ名
<u>現状</u> <u>問題点</u> <u>課題</u> <u>解決策</u>	

3 グループ討議の報告

● : (地域)

テーマ : 子どもの安全な居場所のためにスペースを確保	グループ名 : 地域
<u>現状</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の施設（公園、学校、児童館等）が自由に使えない。 ・ 安全で自由に使えるスペースがない。 <u>問題点</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの行き場所がない。 ・ 子どもが他者とコミュニケーションが取れない状態にさせられている。 (ゲーム・学校・共働きの家庭など) <u>解決策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃校の再利用を子どもたち自身に考えさせる。 ⇒スペースを提供しようという解決策があるが、本質はそのスペースをどう有効利用するかにより決まる。重要なのはその管理であり、管理に子どもを関わらせる事で子どもの自治精神を養う。決断力も不可欠。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 更地を利用して子どもたちに様々な企画を立てさせる。 ・ 大学・企業色々を協力して、人・モノ・金の部分で協力してもらう。 	

● : (環境)	
テーマ : 都市の中の自然環境実体験の場・ 未来に伝える伝承の場	グループ名 : 子育てのための環境
<p><u>問題点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そもそも地域に対する帰属意識が低い。 ・ 公園が有効に活用されていない。ホームレスの問題。 ・ 自然体験の機会が少ない。 ・ 子供の遊びの伝承が少ない。 ・ 地域社会の担い手が少ない。 <p><u>解決策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園のルールを改善を行う。 ・ 緑に対する意識を育てる。 ⇒町の至るところに小さなスペースを作る。植え込みを整備する。 ・ 子供に対する遊びや文化の伝承の場を地域ごとに作る。(寺子屋・塾) ・ 上記の方法を子どもたち中心に動かし、子どもたちに独自のルールを考え出させる。 	
● : (青少年)	
テーマ : 青少年の居場所	グループ名 : 青少年
<p><u>現状</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新宿での青少年の居場所がない。 ・ 青少年のタイプとして下の二つが考えられる。 <p>① 目的明確派 ⇒勉強したい人間は塾に行く。音楽をやりたい人間はライブハウスに行く。スポーツをやりたい人間は部活をしたり、近くの公園を利用する。</p> <p>② 目的不明確派 ⇒やることがないため、ファミレスに溜まったり、カラオケボックスやゲームセンターにたむろする。</p> <p><u>理想</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年が主体的に考え、何らかの目標を持って積極的に生きてゆく環境作りが必要。 <p><u>問題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のやりたいことがみつからないという青少年の現状 ・ やりたいことが見つけられる場が必要。 ・ 青少年と一言に言っても様々なタイプの青少年がおり、その多様性に対応できる環境作りが必要。 	

提案

- ・ 自主性を育てる。やりたいことをみつけられるような多様な場所の提供を行う。

※ ゆう杉並を見学。

ゆう杉並は、高校生の委員会が主体となり、彼らの意見を反映して創った施設で、区職員や大人の委員会も高校生のサポートに留まる。青少年の主体性を尊重する為に常に大人は極力口を出さないようにしている。また、普段の運営においても、中高生が企画を立て、自分たちの力で行動している。

ハードは大人。ソフトは青少年という考え方が一貫していた

- ・ とにかく何らかの形で社会との接点を持つ事が必要。

● : (親教育)

テーマ：気がついて欲しい親の役割

グループ名：親への子育て教育

問題点

- ・ バブル世代のコギャルが子育てをしている。自己中心主義が蔓延している。
⇒親が子の人格を認める事が出来ない。これが幼児虐待に繋がっている。
- ・ 親が人の話を聞く事が出来ない。
- ・ 親の発想が幼稚で、仲良し親子などは親の役割からは逸脱している。
⇒親の精神年齢が著しく低い、子供が子供を育てているようなもの。社会性が低い。

課題

① 外部とのコミュニケーションに消極的な人

⇒人間関係が苦手な人。働いており、時間がない人。

② 外部とのコミュニケーションに積極的な人

⇒井戸端会議などで悩みを打ち明ける事ができる。

ここでは主に①の部類に属する人に焦点を当てて考える。

提案

⇒おせっかいの仕組みづくりが必要。

⇒とにかく、「出てこないなら出てこないでいい」という姿勢を改め、子育てをしている親に対して何らかのアプローチを行い、子育てのノウハウの伝授や、悩み相談を出来る場を作るべきである。

また、今日の議論だけでは、提案らしい提案は出てこなかったが、方向性だけは決める事が出来た。

●：(乳幼児)

テーマ：子育て世代とその他の世代の交流	グループ名：乳幼児
<p><u>問題点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期は特に地域とのつながりが無い。公園デビューしても親世代同士の間関係が希薄になりがち。 ・ 年配者と話そうとすると、説教をされるのではないかとおよび腰になる。逆に年配者による経験談を必要としている親もいる。幼稚園の親と保育園の親の交流がないこと、父親の出番がないこと、そもそも親同士の交流すらも薄いこと。幼稚園は夏休み期間閉園しているため、その間空いている。 <p><u>解決策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の場所が欲しいが、治安があまり良くない。子育ての実態がお互いによくわかる環境作りをつくるべき。幼稚園の夏休み開放。 ・ 地域の人にも子どもを取り巻く環境を知ってもらう。 ・ 年配者だけでなく、中高生もボランティアとしてこのような場に参加してほしい。 	

●：(小中学生)

テーマ：小中学生の居場所	グループ名：小中学生
<p><u>問題点と解決策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校のコミュニティスペースがない ⇒空き教室を大人が管理して子供たちに利用させる。 ・ 学校以外の場所で居場所がない。お祭、イベントがない。 ⇒町内会のお祭に子供たちを取りこむ。もっと開放性のあるイベントをすべき。 ・ 子供が安心して活動できる場がない。 ⇒子供に役割を与えて関係性を作る。 ・ 部活動、子供活動の情報がない。 ⇒学校、地域のHPで公開して欲しい。とにかく情報が欲しい。 ・ 心の居場所(思春期)がない ⇒親・地域の大人から啓発をすべき。心の問題を共有できる場をつくるべき。 ・ 色々なスペースを開放しても活動の場の制約が多い。ボール投げの禁止云々 ⇒自分たちでルール作りができる環境を親がサポートすべき。 	

- ：(汐見) 私たちの話し合いの結論は、来年の2月に新宿区の基本構想・基本計画に対する中間のまとめを区民の提言として発表します。今日の議論で多少大筋が見えてきましたが、抽象的な内容に終始したことは否めません。例えば、ゆう杉並の例のように、実地を踏んだ上の理論や主張を、区民側の意見として組み立てた上で、区

にプレゼンテーション出来るくらい具体的なレベルのものを期待されています。自分たちの提案にしても、それを行政ができるのか？民間にできるのか？という現実的な問題を解決する思考とバランス感覚がとても重要です。私たちの分科会とグループの位置づけですが、これは前の会議でも言ったように、新宿区の基本構想・基本計画に基づいています。そこから、色々な分野に分けた結果が分科会や、さらには私たちのグループ分けにも反映されています。つまり、私たちの意見が充実していればいるほど、基本計画となり、実行へとつながっていく可能性があるわけです。というわけで今日の議論を活かして、さらに現実的な議論と提案を行っていきましょう。皆さん、お疲れ様でした。

4 事務連絡

○：今日は皆さんお疲れ様でした。今後の議論の中で、資料が必要な場合や施設等の見学を希望する場合は、企画政策課を通して頂きたいと思います。その時は各グループの代表の方を通して連絡を取って下さい。今回の区民会議の性質上、実際にフィールドワークを行う事は大変有意義ですので是非ご活用下さい。

第5回

日時：8月22日（月）午後1時30分から3時30分

場所：新宿区役所第二分庁舎（旧四谷第五小学校）1階 1-⑦会議室

第6回

日時：9月13日（火）午後4時から6時

場所：戸塚特別出張所 地下一階 集会室

第7回

日時：9月26日（月）午後6時30分から8時30分

場所：新宿区役所第一分庁舎 7階研修室